

★ 初めての三段論法他

子育てというのは、決してなまやさしいものではありません。

生まれたときは、「健康に育てくれさえすれば、それでいい」などと思っていたのに、だんだんそれが揺らいでいきます。子どもは、親の思う通りには育てられないのです。

しかし、日々の生活の中には、笑いの種もいっぱいあります。

《「子育て日記」1992年から》

◆初めての三段論法

耕平 3才1ヶ月。食事開始から30分余り。皿の上にはおかずがまだかなり残っている。

食べるのに飽きたのか、立ったりすわったり、遊んだり。

私 「こうちゃん、ちゃんとおすわりして食べなさい。」

耕平 「あのねえ、こーちゃん、ちーちゃんの。」

私 「そうね。」

耕平 「だから、たべられないの。」と言って、私にすりよる耕平。

耕平 「だから・・・」

私 「ん？」

耕平 「おかあさん、たべさせて。」私のひざの上にすわりこむ、耕平。

◆年寄りが直ったら

耕平は走るのが好きです。

保育園の運動会以後、ますますそれに拍車がかかり、一緒に走る仲間を求めて、誰かれとなく誘います。

この日、誘われたのはおばあちゃん。

「おばあちゃん、ぼくとマラソンやろうよ。」

「うん、でもね、おばあちゃんはもう年寄りだから。」

「じゃあ、トシヨリが直ったら、できる？」

耕平は、“年寄り”とは、風邪と同じような病気と思ったのです。何日か後、

「おばあちゃん、もうトシヨリ直った？」

「う～ん、まだだけど・・・ じゃあ、おばあちゃんも早く年寄り直して、耕ちゃんとマラソンしてみようかな。耕ちゃん、一緒に走ってくれる？」

「うん、走ってあげるよ。」恩着せがましく答える耕平。

“年寄を直す”という考え方はなかなかいいと、皆すっかり気に入りました。

おばあちゃんも先月から始めた朝の散歩で丈夫になった足に、さらにみがきをかけて、耕平とジョギングしてみようかという気になっています。..

◆逆襲

私の電卓を持ち出していたずらしている耕平に、

「ねえ耕ちゃん、何やってるの？」

耕平、こちらを見向きもせずに、

「いま、ぼくおしごとしているんだから、ちょっと聞かないでね。」

少し前のこと、私が仕事に耕平があれこれと質問をしてうるさかったので、

「いま、おかあさんお仕事しているんだから、ちょっと聞かないでね。」

と言ったのを覚えていたようです。

耕平、3才6カ月。

◆ よく見てる

家族そろって食事のこと。ひじをついて食べるかおる。注意する夫。

「なんでいけないの?」と聞くかおる。

夫、答えにちよっとつまる。

かおるに説明する私。マナーおよび食事の姿勢と健康との関係について。

「わかったか、かおる」と夫。

するとかおる、すかさず「おとうさんは、いつも『わかったか』しか言わない。」

絶句する夫。

かおる、5才8ヶ月。

* * * * *

子どもは、身体だけでなくその内面も、日々成長しているのだなあと思います。

「親の言うとおりのことしかしない子なんて面白くない」「今日は何をしてかすだろうか」ぐらいの気持ちで、子どもの成長を観察していると、なかなか面白いものです。

そして、親がそういう姿勢でいると、子どもものびのび行動するよう感じられます。

矢口みどり